

だれもが一緒に楽しめる障がい者スポーツ その支援を通じ、共生社会の実現に貢献

製薬会社という性格上、社員の健康や障がいへの関心度が高いという中外製薬。活動を展開するうえで、キーワードとなっているのが「延長線上」という考え方である。従来から行っている社会貢献活動や社員の関心の高いスポーツの延長線上にあるものを上手に活用することで、社内外の巻き込みに成功、社員の成長にもつなげている。



すべての革新は患者さんのために



中外製薬株式会社



企業情報

中外製薬株式会社

【住所】東京都中央区日本橋室町二丁目1-1
【電話】03-3281-6611(代表)
【URL】<https://www.chugai-pharm.co.jp/>



啓発冊子と写真パネルの作成からスタート



写真パネル・障がい者スポーツ用具の展示会

「正直、何から始めたら良いか分からなかった。」と振り返るサステナビリティ推進部社会貢献グループマネジャーの加藤正人氏。まずは社員に障がい者スポーツを知ってもらうことから始めようと、障がい者スポーツを紹介する冊子と写真パネルを作成。冊子は、全社員に配布するとともに、その家族や取引先にも配布したところ、好評であった。



社員の関心が高い競技の延長線上に、巻き込みのヒントがある

さらに同社では、「ブラインドスポーツ体験会」などの障がい者スポーツの体験会やボランティア活動を実施。社員たちは積極的に参加しているが、その背景には、加藤氏の気づきから生まれたある仕掛けがある。その仕掛けを生むきっかけとなったのが、2016年から特別協賛している「親子で楽しむチェアスキー教室」(日本チェアスキー協会主催)で聞いた社員からの声である。



親子で楽しむチェアスキー教室

「スキー検定1級取得者や指導員の資格を持っているなど、スキー経験者たちが集まってくれたのですが、みな自分が得意なことや興味のあることでボランティアができるのいいねと言っていました。ならば、社員が好きな競技の延長線上にある障がい者スポーツなら、より多くの社員がボランティアや体験会に参加してくれるのではないかと。そう気づけたのは大きかったです。」(加藤氏)

デフサッカー選手の入社で、さらなる展開へ

こうした活動を通じて、障がい者アスリート支援の重要性もたびたび耳にしていた同社は、新たな決断をする。2017年に障がい者アスリート雇用制度を整え、2018年9月、デフサッカー・デフフットサル選手の設楽武秀(したら・たけひで)氏を迎え入れたのだ。



設楽選手(デフサッカー・デフフットサル)との交流会

設楽氏の活動を社内のSNSを通じて発信。応援メッセージが寄せられるとともに、活動予定を知った社員が試合の応援に駆けつけてくれることもあるという。同社としても一般社団法人日本ろう者サッカー協会のゴールドスポンサーとなり、デフフットボールガイドブック『FLAG』の制作・発行を支援。また、社員とその家族や聾学校の生徒に向けて、デフフットサル体験会や交流会を開催。こうした活動に社員を上手に巻き込むことで、社員の意識に変化が生まれてきた。障がい者スポーツ支援を始めるにあたっては、まずは身近なところからが良いのではと加藤氏は語る。



(左)設楽氏 (右)加藤氏

「例えば、家族向けの工場見学といった社内イベントの際に、車いす体験などから始めてみてはいかがでしょうか。また、現在、社会貢献活動をされているようでしたら、その延長線上にいる方に声をかけてみると良いかもしれません。世の中には、障がい者スポーツ支援をしたいと考えている方は案外たくさんいます。そうした方たちと協力し合い、モノや人、場所といった資源を出し合うことで、さほどコストをかけずに活動を始められると思います。」(加藤氏)



コロナ禍における取組・今後の方向性

当社は今後も、障がい者スポーツが普及していくための環境整備や啓発活動などに取り組んでいく。障がい者スポーツ体験会などのイベントは、人数を制限するなど新型コロナウイルス感染予防対策を講じながら、継続的な支援を実施する。また、障がい者スポーツの普及と共に障がいへの理解促進につながる冊子を作製し、当社が支援するイベント等で配布していく予定。